

GRADUATE OF SHIMANE UNIVERSITY



大規模震災から考える看護
2024年1月、自ら志願しDMAT（災害派遣医療チーム）として石川県の地域医療に携わった谷口さん。それは珠

感じますね。新しいことにチャレンジできる環境、学べる機会が多いことは大病院ならではの良さだと思います」。

谷口さんは現在、口腔外科・皮膚科の病棟で勤務しています。仕事も一通りこなし、管理や指導なども少しずつ任せられる立場です。「後輩には、業務やフォローを教えるだけでなく、こんな仕事もあるんだなあと視野を広げられるように意識して働いているところもあります。決してやらされているのではなく、なりたいた自分を意識してもらえよう」と、ほほ笑みながら話す谷口さんは、自身もここで見つけた新たな夢に向かって頑張っています。

洲市の地域の人たちが暮らすための地域医療の支援でした。「家が崩壊し、道がくずれ、非日常の中で暮らす人々は本当に大変だと思っています。DMATとして派遣された5日間、一生懸命サポートさせていただきましたが、力になったのかなと思うこともありました。それでも感謝の言葉や、頼れる人がいることで救われた人がいると聞くと行ってよかったと思います。また私自身、この経験は今後の看護師人生においての貴重な経験になったことは間違いありません」。被災地の人々がまた地域で過ごせるようにすること、医療面での充実を図ることも大切な地域医療だと実感したそうです。

看護師としてできることは、治療に寄り添うことだけではない

さまざまな患者さんと出会うなかで、患者さんがこのような状態にならないためにできることがあるのではないかと、思うようになったそうです。「皮膚科病棟には、褥瘡（じよくそう）や床ずれがひどくなり入院する人も多くいます。その中で『悪化する前に予防できれば、入院せずにすんだのではないか』。また、せん妄を引き起こし転倒により骨折して寝たきりになった人には『せん妄の対策や予防ができれば、骨折することなく、この人の残りの人生は大きく変わったのではない

か。本人が思い描いていた人生を過ごすことができたのではないか』ということの日々強く思うようになり、一般看護の業務の枠を超えて学びたいという意識が強くなりました」。谷口さんはすでに※特定行為研修を受け看護師としてスキルアップしながら「病院ではもちろん頼ってほしいですが、患者さんにとっての最良は、多くの場合が入院ではなく自宅で過ごすこと。そのために看護師としてもっとできることがある」と、訪問看護など時代とニーズに合った看護師としての貢献の仕方を探求しています。

※特定行為研修：…看護師が特定行為を行う場合に特に必要とされる実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能の向上を図るための研修で、研修を修了すると、特定行為を手順書により実施することが可能となります。



国立大学法人
島根大学医学部附属病院

島根県出雲市塩冶町89-1

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

島根県の大学病院として、また地域災害拠点病院として地域医療の根幹となり医療を支える。病床数600床。

活躍する卒業生



島根大学医学部附属病院 看護部 谷口真保さん

島根大学 医学部看護学科2016年3月卒業



“学ぶ”と“働く”はつながり、新たなステージへ



大学での学びが直結する
先進医療の現場

『島根大学医学部附属病院』で精力的に働く谷口さんは、入職9年目の看護師。「母親が看護師をしていたこともあり高校生の頃から看護師を自然と目指すようになりました」。京都出身の谷口さんが島根大学を選んだ理由は、地域医療や高齢者医療、学びと研究が直結する場所であると感じたこと。そしてなにより視野を広げて学べると考えたためでした。

「今は、ここが私の居場所です」と、大学卒業後も地元に戻ることなく、大学時代から近しく感じていた場所を職場として選びました。「学生のときに理解できなかったことも今は経験を通じて理解することができています。学生のときの努力や経験、そして恩師からいただいたアドバイスが今の学びの根底にあると

